医療薬学研究科

(医療薬学専攻)

シラバス

Syllabus 2023



あなたの学びを あなたのカタチに

九州保健福祉大学

Kyushu University of Health and Welfare

	科目名	2	2023			授業コード	2 0 2 3	単位数	2 茸	单位					
配	当学科(学	年)	医療薬学研究科(1年)			時間数	30	AL 科目		O					
	担当者		2023	開講学期	2023 年度前期	必修·選択	必 修	授業形態	講義、	•					
	受業の概要 般目標(GI	名 (表) (A) (A) (A) (A) (A) (A) (A) (A) (A) (A	臨床の場において、薬剤師は医療 離かつ判断が難しい倫理的問題を 理問題の予測、評価、判断ができ 本特論では、臨床現場における「/ 「~の規制の根拠となる制度(法)に またこれは、臨床現場での服薬指 な思考でもある。本特論を通じて受 目的とする。	を数多く引き起こ、医療人としてれ 、 医療人としてれ 〜 は患者の権利 は何か」等の臨り 導やインフォー・	している。そこで医療係 目応しい行動規範を示す として認められるか」、 までの実践的問いかける ムド・コンセントだけでは	â理学特論では すことができるҙ 「~は薬剤師の を倫理的・社会はなく、創薬や薬	、臨床及び研究 薬剤師の育成を 行動として倫理 的・臨床的視点 学を含めた生命	における様々 目的とする。し 的妥当性はあ を踏まえた討 う科学研究全	な医療 たがっ るか」 議を行 体にも	療倫 って 」、 う。要					
	到達目標 (SBOs)	2 3 4 5 6 7	() 医療倫理と生命倫理の学問的 2) 臨床におけるインフォームド・コ 3) 臨床における患者の自己決定 4) 臨床上の医療契約や医療過誤 5) 疾病が患者に及ぼす倫理的問 6) 薬の製造や服用に関して必要 7) 生命に関わる倫理的問題点を	ンセントの必要権とその問題点から生ずる医療 題を抽出し、必 な責任や倫理観	性と注意点を説明できるを説明できる。 を説明できる。 様従事者の責任と倫理問要な態度を示す。 ほを説明できる。	ర .	ే .								
	務経験のな 員による教		が 生命に関わる神程的问題点を描出し、説明できる。 鈴木は、薬剤師として大学病院等で長年の調剤経験や服薬指導歴を持ち、それを活かした指導を行う。												
	評価方法 準備学習・	3	3回のレポートおよび口頭発表を総合的に評価する。												
	^{华佣子首・} 多上の注意	- Т	博士課程でもあり、自ら探求し、講義への準備を行う等、積極的な態度を望みたい。												
オ	フィスアワ	<u> </u>	月曜~木曜日昼休み及び在室時	は随時(1 号棟 3	階 B-327 医事法学研	究室)									
授業	計画 SBOs							授業							
数	No.	E + W			ド内容			方法		担当					
1	1)		ậ理と生命倫理の歴史的変遷を確 ậ理に基づく責任ある研究活動を		0			講	遠 前	前 田					
2	1)2)	臨床に	こ必要なインフォームド・コンセント	の知識を確認し	、理解する。			講	轰 前	前 田					
3	2)3)	臨床に	こ必要な患者の自己決定権の内容	『を確認し、理解	する。			S G	D 前	前 田					
4	3)4)5)	医療契	契約に関する知識を確認し、理解で	ける。				講	轰 前	前 田					
5	3)4)5)	医療契	2約により生ずる医療従事者の倫	理観について討	議する。			S G	D 前	前 田					
6	3)4)5)	医療過	過誤とリスクマネジメントに関する知	口識を確認し、討	議する。			S G	D 前	前 田					
7	3)4)5)	医療過	過誤の事例から医療従事者の責任	と倫理観につい	って討議する。			S G	D 前	前 田					
8	3)5)7)	疾病が	「患者に及ぼす倫理的問題につい	て確認し、理解	する。			講	シェアスト 大	大 倉					
9	1)~7)	医療倫	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ける。				S G	D 大	大 倉					
10	3)7)	生命の)選択に関わる倫理的問題を討議	する。				講	遠 前	前 田					
11	5)6)7)	薬と倫	理に関する事例を発表し、討議す	⁻ る。				講	轰 釺	令木					
12	1)~7)	医療倫	論理に関する問題を発表し、討議 で	ける。 				S G	D 釺	令木					
13	1)4)5)	医療従	作事者の守秘義務と倫理観につい	て確認し、理解	する。			講	遠 前	前 田					
14	3)5)7)	脳死や	b臓器移植に関する知識を確認し	、理解する。				S G	D 前	前 田					
		ı —													

参考書(著者名)出版社名【ISBN】

2023

なし

	科目名	2023			授業コード	2 0 2 3	単位数		2 単(立		
配	当学科(学	年) 医療薬学研究科	斗(4年)				時間数	30	AL 科I	3	0	
	担当者	2023		開講学期	2023 年度	前期	必修•選択	必 修	授業形	態	寅習•S	GD
	受業の概要 般目標(GI	判断能力を総合 適化していく能 種々の状況にも の手法の選択が	東習は、これまで学ん 合的に活用できることで 力の向上を目指す。 具 基づいてシミュレーショ ならびにその実践能力	を目的とする。 具体的には、タ ョンし、その中 ョ、および検討	。即ち、薬剤師美 病院薬局、保険 での問題点を拍 け結果を客観的I	業務の中 薬局、在 由出して に評価し	で、レギュラト E宅医療の各現 検討すべき課題 総括する能力	リーサイエンス(場における薬剤 種を提起する。 さ	の視点に 剤師業務	基づき を、想	業務を 定され	E最 る
	到達目標 (SBOs) 1) 病院薬局において、レギュラトリーサイエンスの視点に基づき業務を最適化できる。 2) 保険薬局において、レギュラトリーサイエンスの視点に基づき業務を最適化できる。 3) 在宅医療において、レギュラトリーサイエンスの視点に基づき業務を最適化できる。 実務経験のある											
	実務経験のある教員による教育											
	評価方法		双り組み姿勢(積極的な 的に評価して点数をつ			0 点)お。	よび授業後の 簡	9単な口頭試問	またはレ	ポート	内容(5	i0
	準備学習・ 多上の注意	- 超業時間がに	15 時間の学習を行う		L & 11 7°							
オ	フィスアワ	一 在室時適宜										
	計画								1	1177 W		
回数	SBOs No.			授美	業 内 容					授業 方法	担	当
1	1)	病院薬局における業	務問題の予測ができ	る。						演習	鈴	木
2	1)	病院薬局における業	務問題の評価ができる	る。						演習	鈴	木
3	1)	病院薬局における業	務内容の適切性の判	断ができる。						演習	髙	村
4	1)	病院薬局におる業務	の最適化ができる。							演習	髙	村
5	1)	病院薬局業務におけ	る総合的討論							SGE	徳	永
6	2)	保険薬局における業	務問題の予測ができる	る。						演習	横	山
7	2)	保険薬局における業	務問題の評価ができる	る。						演習	白	﨑
8	2)	保険薬局における業	務内容の適切性の判	断ができる。						演習	比比	佐
9	2)	保険薬局におる業務	の最適化ができる。							演習	鳥耳	10部
10	2)	保険薬局業務におけ	る総合的討論							SGE	大	倉
11	3)	在宅医療における業	務問題の予測ができる	<u></u> る。						演習	黒	JII
12	3)	在宅医療における業	医療における業務問題の評価ができる。							演習	木	村
13	3)	在宅医療における業	医療における業務内容の適切性の判断ができる。							演習	大	塚
14	3)	在宅医療におる業務	の最適化ができる。							演習	金	光
15	3)	在宅医療業務におけ	る総合的討論							SGE	Щ	﨑
教科書(著者名)出版社名【ISBN】 2023												
参考	書(著者名	名)出版社名【ISBN】	必要に応じレジュメ	を配付する。								

	科目名		2023			授業コード	2 0 2 3 <u>i</u>	単位数	0 単位
配当	当学科(学	年)	医療薬学研究科 (1~4年)	1		時間数	制限無し	AL 科目	
	担当者		2023	開講学期	2023 年度前期	必修•選択		授耒形 悲	実 験 研 究 調 査 研 究
	業の概要 般目標(G 到達目標 (SBOs)	(0)	特別研究では、院生が高度な論理的い学術論文を作成する能力を修得す 臨床現場において指導的立場に立て 問題に対処するために 1) 問題点を抽出し検討課題を設定す 2) 課題遂行の手法を選択し実施する 3) 検討結果を客観的に評価し総括	「る。 てる薬剤師とし することができる ることができる することができる	して、医薬品の品質、安 そる				
	多経験のa		4) 成果を公表し社会に還元すること 指導教員個々の専門性に応じた研3						
<u> </u>	真による教 評価方法 集備学習	•	博士研究成果発表会終了後、研究和 う。本審査では、博士論文の新規性 て合否を議決する。研究科委員会で 特に無し	斗長は研究科 ・社会貢献(60	委員会を招集し、同研 %)、プレゼンテーション	能力(20%)、論理	里的思考能力(20%		
1,5211	<u>多上の注意</u> フィスアワ		一 						
	計画		が行用点						
回数	SBOs No.			授	 業内容			授業方法	担当
観制	1) -4)	薬剤 であ 術的 が取	研究における論文作成で培われる論 師として最善の職責を果たすことがでる。従って、博士論文の主題は、研究 興味に従い、さらに医薬品の品質、安 別組んできたこれまでの研究テーマを な討議のもとに実施される。	き、臨床現場 指導教員の指 そ全性、有効性	において指導的立場に 「導の下、院生が将来で 「まの独立した3群の区分	こ立てる薬剤師の の進路に捉われ よに捉われること	の養成に極めて重 いることなく純粋な! となく、研究指導教	で 重要 学 女員 研 穷	医療薬学 , 研究科 , 教 授 准教授
			₩E th & Froduit					I	ı

参考書(著者名)出版社名【ISBN】

2023

使用しない

	科目名		2023				授業コード	2 0 2 3	単位数	2	2 単1	位
配	当学科(学	年)	医療薬学研究科(1・2・3 年)				時間数	30	AL 科目		0	
	担当者		2023	開講学期	2023 年 度	前期	必修·選択	選択	授業形態	講義	、実習	, SGD
	受業の概要 般目標(Gi		現在使用されている多くの医薬品基本骨格が存在する。従って、医性等についての品質を予測、評価用の低下を防ぐために化学的相望不可欠である。医薬分子機能化質である。大学である。医薬分子機能化質である。大学である。	薬品の適正使用 「そして判断でき 豆作用(配合変り が特論では、合成 変品、ペプチド医	月のためには、 る能力が求め とおよび体内に 対医薬品や天然 薬品、核酸医	医薬品の られる。 おける)骨格構造と官は さらに、調剤にお 目互作用)による の危険な相互作 医薬品等、医薬	能基等から、そ おいては、医薬, 品質を予測、記 作用を未然に防 品分子の骨格	の化学的安況 品の物性変化 平価そして判 ぐために、代	定性 ⁴ とやす 断す。 表的	や反 を理 るこ はな複	応作とも
	到達目標 (SBOs)	1) 医薬品に含まれる代表的な官能基を列挙し、その代表的な性質と反応性について説明できる。 2) 医薬品として複素環化合物が繁用される根拠を説明できる。 3) コンピューターソフトを用いて医薬品の立体構造および受容体との相互作用をシミュレートできる。 4) 代表的な複素環化合物を含む合成および天然物医薬品を列挙し、骨格構造と官能基に関連付けてそれ化学的に説明できる。 5) 代表的なペプチド、核酸および糖医薬品を列挙し、骨格構造と官能基に関連付けてそれぞれの作用機のある										
	務経験の 員による教		特になし									
3人	<u>東による家</u> 評価方法		レポートおよび口頭発表を総合的	に評価する。詳細	細の評価基準に	<u></u> ま、第 1	回の講義で説明	 月する。				
	準備学習・		各担当の先生から講義の内容、					:。予習復習は、	授業の前後	およ	び休	日
	多上の注意 		を利用して、約1時間 / 講義 × 各担当教員のオフィスアワーと同		5時间以上必9	けてつこと	5 .					
	フィスアワ	_	場所:M-4号棟 生薬学講座 薬	化学講座								
授業	計画 SBOs								担	業		
数	No.			授 美	業 内 容					法	担	当
1	1)	医薬	英品に含まれる官能基の化学的性質	で関する知識を	を確認し、理解	する。			講	義	山	﨑
2	2)	複素	環と医薬品のかかわりを理解する。						講	義	旦	﨑
3	3)	コン	ピューターソフトを用いて代表的なネ	复素環医薬品の	立体構造をシ	ミュレート	して、理解する	-1。	実	習	山	崎
4	3)	コン	ピューターソフトを用いて代表的な著	复素環医薬品の	立体構造をシ	ミュレート	して、理解する	-2 _°	実	習	山	崎
5	3)	複素	表環医薬品の立体構造のシミュレー	ションに関するレ	ッポートを作成 [−]	する。			実	習	金	光
6	3)	コン	ピューターソフトを用いて代表的なネ	复素環医薬品と	受容体との相互	作用を	シミュレートして	、理解する-1。	実	習	金	光
7	3)	ココ	ピューターソフトを用いて代表的な著	复素環医薬品と	受容体との相互	作用を	シミュレートして	、理解する-2。	実	習	金	光
8	3)	複素	表環医薬品と受容体との相互作用 <i>の</i>	シミュレーション	/に関するレポ・	ートを作り	成する。		実	習	金	光
9	1)2)	医薬	薬品の開発、医薬品の構造活性相関	間に関して理解を	- 深める1				講	義	大	塚
10	1)2)	医薬	薬品の開発、医薬品の構造活性相関	間に関して理解を	- 深める-2				講	義	大	塚
11	1)2)4) 5)	ペプ	『チドや糖類の医薬品の論文を検索	し、作用機序を記	調べて討議する	 5−1			S	G D	大	塚
12	1)2)4) 5)	ペプ	『チドや糖類の医薬品の論文を検索	し、作用機序を記	調べて討議する				S	G D	大	塚
13	1)2)4) 5)	論文	てを読み、内容についてレポートを作	成し、討議する	—1				S	G D	大	塚
	1)2)4)	論文	またきょ 中家についてしま したか	:成! 計議する					S	G D	大	塚
14	5)		てを読み、内容についてレポートを作						" `			_
14 15	1)2)4)	研究	てを読み、内容に Jいてレホートを正 民発表を聞き発表内容について討議							G D	大	塚

2023

参考書(著者名)出版社名【ISBN】

	科目名	2023			授業コード	2 0 2 3	単位数	2 単位	
配当	当学科(学	年) 医療薬学研究科	以(1•2•3 年)			時間数	30	AL 科目	0
	担当者	2023		開講学期	2023 年度前期	必修·選択	選択	授業形態	講義、実習、SGD
	養業の概要 般目標(GI	力維持、免疫機 要性に対応でき こで個々の生薬 天然物の品質に では、漢方処方 知識をふまえ臨	能更新をはかる代替 ると期待されている。 や漢方処方の品質を こ基づき、個々の患者 に含まれる各生薬の 床の場での効果や副	補完的な医療事実、生薬や 予測、評価ではいるそれにおけるそれ とない性質、 作用を予測	有する高齢者の増加が 療が必要となっている。 さ漢方薬等の天然物が そして判断できる能力が いらの薬効を予測、評価 各生薬の品質に係る 、評価し、適切な投薬が	日本では、伝統 現在の医療現場 が求められる。ま 最そして判断でき 要素、他生薬や まを判断できる能	でである東京 場において重要 た、生薬や漢 る能力は重要 他治療薬とのも	洋医薬学がこの な役割を担っ 方処方の成分 である。東洋路 目互関係を学び	のような必 ている。そ こ含まれる 医薬学特論
	1)代表的な漢方処方について、それぞれに含まれる生薬とその薬効を説明できる。 到達目標 2)生薬の品質を決定する要因を挙げ、品質に及ぼす影響を説明できる。 3)自然界から得られる天然医薬品の有用性について説明できる。 4)代替補完医療としての漢方の役割と、他の医療との関連性を概要できる。 実務経験のある								
	务経験のま 員による教	主 M 							
	評価方法	レポートおよび「	コ頭発表を総合的に評		心面でもて				
	準備学習・ 多上の注意		・見いだし、それを解明 5 時間の学習を行うこ		必安である。				
オ	フィスアワ		、メントをとること。 4 号棟)6 階生薬学講座	· ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	 王室している。				
	計画							122 4	<u> </u>
回数	SBOs No.			授美	集内容			授 第 方:	
1	1)~4)	代表的な漢方処方と	含まれる生薬、天然物	を分類し、理	里解する。			講	
2	2)3)	薬用植物の薬効成分	を調べ理解する。-1					講義·演	潜 大 塚
3	2)3)	薬用植物の薬効成分	を調べ理解する。-2					講義・演	图 大塚
4	2)3)	自然界に存在する天	然医薬品について調ぐ	ヾ、討議する	_o –1			講義・演	潜 大 塚
5	2)3)	自然界に存在する天	然医薬品について調ぐ	ヾ、討議する	。-2			講義・演	潜 大 塚
6	2)3)	生薬・天然物に関する	る最新の研究について	調べ、討議・	する。−1			講義·演	潜 大 塚
7	2)3)	生薬・天然物に関する	る最新の研究について	調べ、討議・	する。−2			講義·演	習 大 塚
8	1)~4)	学習の成果を発表し、	. 討議する。					S G	D 大塚
9	3)4)	現代における漢方の	適応についての資料を	-調べ、討議	する。-1			講義・演	湿
10	3)4)	現代における漢方の	適応についての資料を	-調べ、討議	する。-2			講義・演	湿」
11	3)4)	各生薬を構成する薬	用植物とそれらの産地	を調べ、討	議する。−1			講義・演	湿差美
12	3)4)	各生薬を構成する薬		講義・演	溜 渥 美				
13	3)4)	薬用植物の産地間で	の種差を調べ理解する	る。−1				講義・演	湿差美
14	3)4)	薬用植物の産地間で	の種差を調べ理解する	ნ. −2				講義・演	湿差美
15	1)~4)	学習の成果を発表し、	. 討議する。					S G	D 渥 美
教科	書(著者:	名)出版社名【ISBN】	2023						
参考	書(著者名	名)出版社名【ISBN】	なし						

	科目名		2023					授業コード	2 0	2 3	単位数	2	2 単位	立
配	当学科(学	:年)	医療薬学研究科	4(1・2・3 年)		_		時間数	;	30	AL 科目		0	
	担当者		2023		開講学期	2023 年	度前期	必修·選択	選	択	授業形態	講	義、S	GE
	受業の概要 般目標(GI	-	り、定性・定量の場における医薬 それらの技術の の分析対象につ	ダーメイド医療」実現 うための分析技術は 品の適正使用のみ 発展には目覚ましい いて最適な分析方 と実際の応用例に	必須となって(でなく、その製 \ものがあるた 法を開発する	いる。また、科 製造過程や保 が、きめの細れ 能力を備えて	学的な分 存において いオーダ いることか	析技術に基づし も不可欠である ーメイド医療を 「望ましい。本特	↑た品質 る。医薬 実現す 論では	で 品の体 るために 、 臨床	」、評価、判題 内薬物濃度 こは、臨床薬 分析に用いる	所は、問 測定を 剤師か	臨床 を含む が、個	現む
	到達目標 (SBOs)		2) 生体試料の 3) 治療的薬物- いて概説できる。 4) 臨床分析でが 5) 臨床分析であ 6) 臨床分析に	分野で用いられる代 取り扱い、前処理法(Eニタリング(TDM)の 。 凡用されている分離: 用いられている主なれ 関する欧文の論文に の測定法に関する論	について概説 D意義と、TDM 分析法(HPLC 食出法につい 書かれている	できる。 M に用いられ C と電気泳動 て概説できる 6内容を概説	る主な分析 の実施法 。 できる。	と応用例を概認	だできる)原理および	応用例	列(こ*	つ
	外経験の は													
_	員による教 評価方法		レポート 60%、S0		 定を行う。									
	準備学習・ 多上の注意		何らかの分析手)分析化学Ⅰ、Ⅱ、Ⅱ 法が必要であるたぬ 備等で、30 時間程度	り、自身の専門	門とする分野	こおける研							
オ	フィスアワ	-	毎週水曜日 17:0	00~19:00										
- 受業	計画	'- <u> </u>	毎週水曜日 17:0	00~19:00								1		
- 受業 可		<u> </u>	毎週水曜日 17:0	00~19:00	授:	業内容						· 注 i 法	担	<u></u>
	計画 SBOs			00~19:00 割を確認し、分析方							7.	受業 i法 ·SGD	担全	
	計画 SBOs No.	臨床	分析の意義や役		法の特徴を理	里解する。	議する				講義	法	-	j
	計画 SBOs No.	臨床生体	分析の意義や役試料の取扱い法	割を確認し、分析方	法の特徴を理処理法につい	里解する。 いて検索し、討	議する				講義講義	i法 ·SGD	全	j
受業可数	SBOs No. 1) 1), 2)	臨床生体臨床	が 分析の意義や役 試料の取扱い法 分析の方法に関	割を確認し、分析方を確認し、最新の前	法の特徴を理処理法につい	里解する。 、で検索し、計 計議する。	議する				講義講義	·SGD ·SGD	全 全]
受事数	計画 SBOs No. 1) 1), 2) 1)~7)	臨床生体臨床免疫	分析の意義や役 試料の取扱い法 分析の方法に関 反応を用いた分	割を確認し、分析方 を確認し、最新の前 する最新の研究内容	法の特徴を理処理法についる	里解する。 いて検索し、計 計議する。 C学ぶ。	議する				才 講 講 講 講 講 講	·SGD ·SGD	全 全 全	
受	sBOs No. 1) 1), 2) 1)~7) 2)~5)	臨床生体臨床免疫生体	分析の意義や役 試料の取扱い法 分析の方法に関 反応を用いた分々 試料の取扱い法	割を確認し、分析方を確認し、最新の前する最新の研究内容所法の原理、実施応	法の特徴を理処理法についる。 学を検索し、記用例についる。 実地に学び、	里解する。 いて検索し、計 計議する。 ご学ぶ。 討論する。					方講義講義講義講義講義	·SGD ·SGD ·SGD ·SGD	全 全 全	
受回数 2. 3 4 5 6	sBOs No. 1) 1), 2) 1)~7) 2)~5) 1)~5)	臨床生麻免生治療	分析の意義や役試料の取扱い法分析の方法に関 反応を用いた分類 試料の取扱い法	割を確認し、分析方を確認し、最新の前する最新の研究内容所法の原理、実施応と分析方法について	法の特徴を理処理法についる。 対象を検索し、計算を検索し、対象を検索し、対象を検索し、対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	理解する。 いて検索し、討 対議する。 で学ぶ。 討論する。					方式講義講義講義講義講義	·SGD ·SGD ·SGD ·SGD ·SGD	全 全 全 全	
受回数	sBOs No. 1) 1), 2) 1)~7) 2)~5) 1)~5)	臨床体 床 疫 体 鴉 床	分析の意義や役試料の取扱い法分析の方法に関 反応を用いた分類 試料の取扱い法	割を確認し、分析方を確認し、最新の前する最新の研究内容 所法の原理、実施応と分析方法についてでグ(TDM)の分析方法	法の特徴を理処理法についる。 対象を検索し、計算を検索し、対象を検索し、対象を検索し、対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	理解する。 いて検索し、討 対議する。 で学ぶ。 討論する。					方 講 講 講 講 講 講 講 義 講 義 講 義 講 義 講 義 講 義 講	·SGD ·SGD ·SGD ·SGD ·SGD ·SGD ·SGD	全 全 全 全	m. m.
受回数。	sBOs No. 1) 1), 2) 1)~7) 2)~5) 1)~5) 2)~5) 1)~7)	臨生 臨免生治 臨論	分析の意義や役試料の取扱い法分析の方法に関 反応を用いた分類 試料の取扱い法 が薬物モニタリン	割を確認し、分析方を確認し、最新の前する最新の研究内容所法の原理、実施応と分析方法についてでグ(TDM)の分析方法最新の英文論文を検いて討議する。	法の特徴を理処理法についる。 対象を検索し、計算を検索し、対象を検索し、対象を検索し、対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	理解する。 いて検索し、討 対議する。 で学ぶ。 討論する。					方 講 講 講 講 講 講 講 講 講 講 講 講 講 講 講 講 講 講 講	· SGD	全 全 全 全 全	
	sBOs No. 1) 1), 2) 1)~7) 2)~5) 1)~5) 2)~5) 1)~7)	臨生 臨免生治 臨論論	分析の意義や役試料の取扱い法分析の方法に関反応を用いた分析 対対の取扱い法 対対の取扱い法 対対の取扱い法 が薬物モニタリン 分析に関連する を読み内容について を読み内容について	割を確認し、分析方を確認し、最新の前する最新の研究内容所法の原理、実施応と分析方法についてでグ(TDM)の分析方法最新の英文論文を検いて討議する。	法の特徴を理法についる。 対象を検索し、記事を検索し、記事のについる。 実地に学び、法に関する問意素し、選択し	理解する。 いて検索し、記す議する。 ご学ぶ。 討論する。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	対議する。				方 講 講 講 講 講 講 講 講 講 講 講 講 講 講 講 講 講 講 講	· SGD	全 全 全 全 全 全 全 全 全 全	
受回数	*計画 SBOs No. 1) 1), 2) 1)~7) 2)~5) 1)~5) 2)~5) 1)~7) 1)~7)	臨生 臨免生治 臨論 論学	分析の意義や役試料の取扱い法分析の方法に関反応を用いた分析 対対の取扱い法 対対の取扱い法 対薬物モニタリン 分析に関連する を読み内容について を読み内容について でき読み内容について でき読み内容について できまるの関連	割を確認し、分析方を確認し、最新の前する最新の研究内容所法の原理、実施応と分析方法についてが(TDM)の分析方法最新の英文論文を検いて討議する。	法の特徴を理処理法についる。 対象を検索し、記述の対象を検索し、記述の対象を検索し、記述の対象を検索し、記述の対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	理解する。 いて検索し、記す議する。 に学ぶ。 計論する。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	対議する。				广 講	· SGD	全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全	
受回数	*計画 SBOs No. 1) 1), 2) 1)~7) 2)~5) 1)~5) 2)~5) 1)~7) 1)~7) 1)~7)	臨生 臨免生治 臨論 学学	分析の意義や役試料の取扱い法分析の方法に関 反応を用いた分析 試料の取扱い法 が、対象物モニタリン・分析に関連する。 を読み内容についた。 を読み内容についた。 できたいないでは、 できたいないでは、 できたいないでは、 できたいないでは、 できたいないでは、 できたいないないでは、 できたいないないないない。 できたいないないないないないないないない。 できたいないないないないないないないないないないないないないないないないないないな	割を確認し、分析方を確認し、最新の前する最新の研究内容所法の原理、実施応と分析方法についてが(TDM)の分析方法最新の英文論文を持いて討議する。いて討議する。	法の特徴を理法についる。 対象を検索し、記事を検索し、記事を検索している。 は、理がは、対象を検索し、記事を検索し、対象を表し、選択している。 要約し、発表している。 要約し、発表している。	理解する。 いて検索し、記す議する。 に学ぶ。 計論する。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	対議する。				方 講 講 講 講 講 講 講 講 講 講 講 講 講	**SGD	全 全 <td></td>	
	*計画 SBOs No. 1) 1), 2) 1)~7) 2)~5) 1)~5) 2)~5) 1)~7) 1)~7) 1)~7)	臨生 臨免生治 臨論 学学学	分析の意義や役試料の取扱い法分析の方法に関 反応を用いた分析 試料の取扱い法 が変物モニタリン 分析に関連する を読み内容について できまりとの関連 の主題との関連 の主題について	割を確認し、分析方を確認し、最新の前する最新の研究内容が法の原理、実施応と分析方法についてが(TDM)の分析方法。から、論文の内容を認定の内容を認定している。	法の特徴を理処理法についる。 対象を検索し、記述の特徴を可能を検索し、記述の対象を検索し、記述の対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	理解する。 いて検索し、記す議する。 に学ぶ。 計論する。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	対議する。				方 講 講 講 講 講 講 講 講 講 講 講 講 講	**SGD	全 全 <td></td>	
	*計画 SBOs No. 1) 1), 2) 1)~7) 2)~5) 1)~7) 1)~7) 1)~7) 1)~7) 1)~7)	臨生 臨 免生 治 臨 論 学 学 学 学床体 床 疫 体 療 床 文 文 習 習 習 習	分析の意義や役試料の取扱い法分析の方法に関反応を用いた分類では、	割を確認し、分析方を確認し、最新の前する最新の研究内容が法の原理、実施応と分析方法についてがの分析方法。から、論文の内容を認定の内容を認定している。	法の特徴を理処理法についる。 対象を検索し、記述の特徴を可能を検索し、記述の対象を検索し、記述の対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	理解する。 いて検索し、記す議する。 に学ぶ。 計論する。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	対議する。				デ	**SGD	全 全 <td>tun. tun. tun. tun. tun. tun. tun. tun.</td>	tun. tun. tun. tun. tun. tun. tun. tun.

2023

参考書(著者名)出版社名【ISBN】

必要に応じレジュメを配布する

= 7 ·	科目名	2023				授業コード	2 0 2		单位数	2 単					
自己 主	当学科(学					時間数	30		L科目						
	担当者	2023	引講学期 	2023 年月		必修・選択	選供医薬			講義、					
	受業の概要 般目標(Gi	となる。薬物の分解を速度論的に解析 ドラッグデリバリーシステム(DDS)を開発 はから作用部位に到達するためには多	でき、安定り をし、薬物の くの生体膜 質確保に大 価などの知	生を予測、薬)体内分布、 遠バリアーを追 こきく貢献する	物が作用i 動態を評価 通しなけ 。そのたる	部位において充 西、判断できる育 ればならず、生 カ、応用薬剤学	分な活性 も力が重要 体膜の構 特論では	を発現、 要である。 造、生体 、薬物の	副作用を軽。また、薬物 、膜中への薬 り安定化、リア	減させ が投 <i>り</i> を物の ポソー	せる 手部 分布 ムな				
	到達目標 (SBOs)	1) 薬物分解反応の速度論を概説できる。 2) 薬物の代表的な分解反応を解析できる。 3) 薬物の安定化のための各種化学的 4) ドラッグデリバリーシステムについて 5) 生体膜の構造、生体膜バリアー、膜 7) 主な医薬品(薬物)の安定化方法を る。	き、分解速 、物理的手 概説できる 透過につい	法について 。 いて概説でき	既説できる る。6)薬物	勿動態について			テムを提案し	ン討議	でき				
	務経験のむ 員による教	- 1 4 5 1-721													
	評価方法 準備学習・		レポート 50%および口頭発表 50%の合計点で評価する。												
	を上の注意	- 一日 福業時間がに 16 時間の今後を行って	授業時間外に 15 時間の学習を行うこと。												
	フィスアワ	一 授業日の授業時間の前後数時間 薬学	单棟 4F 各研	开究室											
授業	計画 SBOs								授業	: T .					
数	No.		•••	巻 内 容					方法	t 1	担当				
1	1)2)	薬物の分解反応に関する知識を確認して理解		-1-+					講		<u></u>				
2	1)2)3)	薬物の分解反応と安定化に関する研究内容							SGI						
3	1)2)3)	薬物の分解反応と安定化に関する論文を読	み内容を討	'議する。 					SGI	D 横	Щ				
4	4)	ドラッグデリバリーシステム(DDS)に関する知	識を確認し	て理解する。					講	遠 堤	=				
5	4)	DDS に関する研究内容を検索して討議する。)						SGI	D 堤	1				
6	2)3)4)	DDS に関する論文を読み内容について討議	する。						SGI	D 堤	1				
7	5)6)	生体膜、膜透過、薬物動態に関する知識を確	館認して理解	解する。					講	 日	高				
8	5)6)	生体膜、膜透過、薬物動態に関する研究内容	字を検索して	て討議する。					SGI	D B	高				
9	5)6)	生体膜、膜透過、薬物動態に関する論文を認	お内容を	討議する。					SGI	D B	高				
10	1)~8)	薬物の安定化、DDS に関する問題点をあげ	課題を設定	して討議する	0				SGI	D 鈴	市				
11	1)~8)	課題に基づいて学習の主題を設定し、その意	気養を発表し	して討議する)				SGI	D 鈴	市				
12	1)~8)	学習の主題に関連する最新の英文論文を検	索し選択し	て討議する。					SGI	D 鈴	木				
13	1)~8)	学習の主題との関連から論文を読み内容を	要約し発表	して討議する	0				SGI	D 全	: 員				
14	1)~8)	学習の主題について発表し、討議する。							SGI	D 全	: 員				
15	1)~8)	討議をふまえてレポートを作成し、討議する。							SGI	D 全	: 員				

参考書(著者名)出版社名【ISBN】

2023

	科目名 2023 授業コード 2 0 2 3 単位数									
	科目名	2023			授業コード	2 0 2 3	単位数	2	単位	
配当	当学科(学	年) 医療薬学研究科(1・2・3 年)			時間数	30	AL 科目		0	
	担当者	2023	開講学期	2023 年度後期	必修·選択	必 修	授業形態	SGI	D, 演習	
	受業の概要 般目標(G		ている。即ち、薬 具体的には、医 おいて、問題点を	剤師業務の中で、レギュ 療現場での種々の設定	ュラトリーサイエ におけるシミュ	ンスの品質の構 レーションを演習	既念に基づき 習形式で体験	業務を し、病	生最適 詩院薬	
	到達目標 (SBOs)	2) 保険祭局において、レギュラ 3) 在宅医療において、レギュラ								
		経験のある による教育								
	評価方法	レポートおよび口頭発表を総合								
	準備学習 修上の注意					こと。予習復習	は、授業の前	前後お	よび休	
オ	フィスアワ		-		-					
****	計画									
回数	SBOs No.		授	業 内 容			授: 方:		担当	
1	1)	病院薬局業務における医薬品の品質	予測ができる。				演	習	山崎	
2	1)	病院薬局業務における医薬品の品質	評価ができる。				演	習	山崎	
3	1)	病院薬局業務における医薬品の品質	の判断ができる				演	習	山崎	
4	1)	病院薬局業務における医薬品の品質	の最適化ができる	5 .			演	習	山崎	
5	1)	病院薬局業務における医薬品の品質	を総合的に討議す	ける。			S G	i D	大 塚	
6	2)	保険薬局業務における医薬品の品質	予測ができる。				演	習	大 塚	
7	2)	保険薬局業務における医薬品の品質	評価ができる。				演	習	大塚、渥美	
8	2)	保険薬局業務における医薬品の品質	の判断ができる。				演	習	大塚、渥美	
9	2)	保険薬局業務における医薬品の品質	の最適化ができる	5 .			演	習	横山、堤	
10	2)	保険薬局業務における医薬品の品質	S G	i D	横山、堤					
11	3)	在宅医療業務における医薬品や品質	安全性予測がでる	きる。			演	習	横山、堤	
12	3)	在宅医療業務における医薬品の品質	評価ができる。				演	習	横山、堤	
13	3)	在宅医療業務における医薬品品の品	質の判断ができる	5.			演	習	鈴木、徳永、日高	
14	3)	在宅医療業務における医薬品の品質	の最適化ができる	5.			演	習	鈴木、徳永、日高	
15	3)	在宅医療業務における医薬品の品質	を総合的に討議す	ける。			SG	i D	鈴木、徳永、日高	

参考書(著者名)出版社名【ISBN】

2023

							1							
	科目名	2023						後業コード		2 3	1 1—221		2 単	
配当	当学科(学	年) 医療薬学研究科(1・2・3 年)					時	計間数	3	0	AL科目	1	0	1
	担当者		講学期	2023				%修∙選択	選	択	授業形		講義、実習	
	受業の概要 般目標(G		技能が い、病態 理などの	必修となる や薬効を)基礎知言	る。免 E客観 哉や概	疫化学 的に評 程念、免	療法 価す 疫担	学特論では ることで医療 当細胞や組	、アレル の実践 織、免疫	/ギーな と進歩! をあるい	ど免疫疾 に貢献で いは生体[患を引 きる薬 5御の	き起。 剤師と 仕組&	こす とな みを
1) 免疫あるいは生体防御の仕組みを概説できる。 2) アレルギー疾患や自己免疫疾患の病態を概説できる。 3) 各免疫系疾患について、治療薬に求められる作用機序を病態に基づき説明できる。 4) 主な免疫系疾患治療薬の副作用や使用上の問題点を列挙できる。 5) 主な免疫系疾患治療薬の副作用の発現機序を説明できる。 6) 主な免疫系疾患治療薬について、副作用の発現を病態と併用薬の観点から推測できる。 7) 主な免疫系疾患治療薬について、副作用を防止・改善する方法を討議し説明できる。 実務経験のある 科目担当者(吉田・佐藤)は、臨床現場や研究機関での実務経験に基づき、臨床現場で必要な基礎知識・技能										ψη ++ 44, σ	\ ht 48 -	<i>+</i> = 4		
	務経験の∂ 員による教		' 研究機関	対での実	務 経馬	灰に基っ	つさ、	臨床現場で:	必要な	垦 健知詞	哉•技能0)修侍	を目的	とし
į	評価方法		解度、授 点があれ	受業態度)の評	点を 10	ے‱ک	して単位認足	定を行う	。評価の	の基準は	授業開		
71211	<u>多上の注意</u> 	Maria Maria de Maria de La Caracteria												
	フィスアワ 試計画	一 各担当教員のオフィスアワーと同じである) 。											
□	SBOs		授当	上上 業内容	.							授業	#1	 旦当
数_ 1	No.	医薬品の作用を免疫学的実験で観察し、理解		K 1, L	•							<u>方法</u> 実 習		
2	2)3)4)	各免疫系疾患の病態と薬物治療に関する知識	0	 、理解す	 る。							講義		
3	2)3)4)	免疫系疾患の薬物治療に関する最新の研究内	容を検索	素し、討論	義する	0						SGC	黒	JII
4	3)4)5)	免疫系疾患の薬物治療の問題点をあげ課題を	設定し、	討議する	5.							SGD	黒	ЛП
5	6)7)	課題に基づいて学習の主題を設定し、その意義	遠を発表	して討議	する。							SGD	黒	Л
6	5)6)7)	学習主題に関連する最新の英文論文を検索し	、選択し [・]	て討議す	-る。							SGD	黒	JII
7	5)6)7)	論文を読み内容について討議する。										SGD	黒	Л
8	5)6)7)	論文を読み内容について討議する。										SGE	黒	Л
9	5)6)7)	学習の主題との関連から、論文の内容を要約し	、発表し	て討議す	する。							SGD	吉	田
10	5)6)7)	論文を読み内容について討議する。										SGE	吉	田
11	5)6)7)	論文を読み内容について討議する。										SGD	吉	田
12	5)6)7)	学習の主題との関連から、論文の内容を要約し	、発表し	て討議す	する。							SGE	吉	田
13	5)6)7)	学習の主題についてレポートを作成して討議す	·る。									SGD	吉	田
14	1)~7)	学習の主題について発表し、討議する。										SGC	吉	田
15	1)~7)	学習の主題について発表し、討議する。											吉	田

参考書(著者名)出版社名【ISBN】

2023

なし。

	科目名		2023					授業コード	2 0 2 3	単位数	2 単位	
配	当学科(学	年)	医療薬学研究科	4(1•2•3年)		T		時間数	30	AL 科目	0	
	担当者		2023		開講学期	2023 年度			選択	授業形態	講義、実習、S	
	受業の概要 般目標(GI		ことがある。その 欠となる。薬品化 めた様々な病態 を修得する。近 分子レベルでの	の改善に劇的な役割 かため、医薬品の適正 作用学特論では、指導 を学び、それらの治治 年の生命科学の進歩 作用を見極める必要 :用発現の予測、評価	使用におい 算的立場に立 寮薬の薬理化 を見据え、薬 がある。薬品	て副作用発現の つことができる? F用・作用機序が 物の作用機序! 4作用学特論 I *	予測、 育能な いら、特 こついで では、眼	評価、そして判 医療人となるたる に副作用発現 <i>の</i> には、臨床生化 艮、心臓血管疾	断は、その安全 めに、主要な疾 D予測、評価、そ 学に基づく病態	性の確保にお 患の分子メカニ そして判断がで 生理学の知識	いて不可 ニズムを行 きる能力 も含めた	「 含 」 :
	1) 医薬品の主作用・副作用が発現する機序を概説できる。 2) 緑内障治療薬、散瞳薬、縮瞳薬などの検査薬を必要とする疾患の病態を概説できる。 3) 眼・心臓血管疾患について、治療薬および検査薬に求められる作用機序を病態に基づき説明できる。 4) 眼・心臓血管疾患治療薬および検査薬の副作用や使用上の問題点を列挙できる。 5) 主な眼・心臓血管疾患治療薬および検査薬の副作用の発現機序を薬理作用と関連させ説明できる。 6) 主な眼・心臓血管疾患治療薬および検査薬について、副作用の発現を病態と併用薬の観点から推測でき 7) 主な眼・心臓血管疾患治療薬および検査薬について、副作用を防止・改善する方法を討議し説明できる。											
	務経験の 員による教		特になし									
	評価方法			および口頭発表を総合								
	準備学習・ 多上の注意			まについて、講義内容 ので、各自で保管する			-	なお、課題の扱	是出物は、学期	末の学習成果	フィードノ	í
	フィスアワ	_	鳥取部(第 I 薬 大倉(薬理学第 比佐(基礎薬理 研究室ドアに掲	Ⅱ 講座) 学研究室)								
授業	計画 SBOs									授業	÷	
数	No.					ド内容				方法	担	当
1	1)			学的実験で観察し、記						実習・80		
2	2-4)			する知識を確認し、説						講		
3	2-4)	薬物	治療に関する最	新の研究内容を検索	し、討議する 	0				SG	D 鳥取	部
4	3-5)	薬物	治療の問題点を	あげ課題を設定し、記	対議する。					S G	D 鳥取	部
5	6)7)	課題	に基づいて学習の	の主題を設定し、その	意義を発表	して討議する。				S G	D 鳥取	部
6	5-7)	学習	主題に関連する:	最新の英文論文を検	索し、選択し	て討議する。				SG	D 鳥取	部
7	5-7)	論文	を読み内容につ	ハて討議する。						S G	D 鳥取	部
8	5-7)	論文	を読み内容につ	ハて討議する。						SG	D 鳥取	部
9	5-7)	学習	の主題との関連	から、論文の内容を要	要約し、発表し	て討議する。				SG	D 大	倉
10	5-7)	論文	を読み内容につい	ハて討議する。						SG	D 大	倉
11	5-7)	論文	を読み内容につ	ハて討議する。						SG	D 比	 佐
12	5-7)	学習	の主題との関連	から、論文の内容を要	要約し、発表し	て討議する。				SG	D 比	佐
13	5-7)	学習	の主題について	レポートを作成して討	 議する。					S G	D 比	 佐
14	1-7)	学習	の主題について	 発表し、討議する。						SG	D 比	 佐
15	15 1-7) 学習の主題について発表し、討議する。									S G	D 鳥取	部
	1-7) 学習の主題について発表し、討議する。 日書(著者名)出版社名【ISBN】 2023											

必要に応じレジュメを配布。

参考書(著者名)出版社名【ISBN】

	刮口力		2022					2 0 2 2	出位粉	り出仕				
新2 Y	科目名 当学科(学	在)	2023 医療薬学研究科(1·2·3 年)				授業コード	30	単位数 AL 科目	2 単位				
HC =		+/		88 =# 24 #n	0000 5 5	- 44 HD								
	担当者		2023 医薬品は、病態の改善に劇的な役割	開講学期	2023 年月		-	選択		構義、SGD Iキヤーオ				
	一般目標(GIO) ことがある。そのため、医薬品の適正使用において副作用発現の予測、評価、そして判断は、その安全性の研究となる。薬品作用学特論では、主要な疾患の分子メカニズムを含めた様々な病態を学び、それらの治療薬の機序から、特に副作用発現の予測、評価、そして判断ができる能力を修得する。近年の生命科学の進歩を見て機序については、臨床生化学に基づく病態生理学の知識も含めた分子レベルでの作用を見極める必要がある論Ⅱでは、循環器系疾患と神経・血管系・腎薬理を取り上げ、治療薬の副作用発現の予測、評価、そして判断うことを目的とする。 1) 医薬品の主作用・副作用が発現する機序を概説できる。													
	1) 医薬品の主作用・副作用が発現する機序を概説できる。 2) 心不全、不整脈、狭心症、心筋梗塞、高血圧症の病態を概説できる。 3) 各循環器系疾患について、治療薬に求められる作用機序を病態に基づき説明できる。 4) 循環器系疾患治療薬の副作用や使用上の問題点を列挙できる。 5) 主な循環器系疾患治療薬の副作用の発現機序を薬理作用と関連させ説明できる。 6) 主な循環器系疾患治療薬について、副作用の発現を病態と併用薬の観点から推測できる。 7) 主な循環器系疾患治療薬について、副作用を防止・改善する方法を討議し説明できる。													
	答経験のな 員による教		特になし。											
	評価方法		3 回のレポートおよびロ頭発表を総合的に評価する。 積極的に討議へ参加すること。 ネットワークに繋がる PC を各自用意すること。											
	準備学習・ 多上の注意		「積極的に討議へ参加すること。ネット 毎回課題を出すので、次回の授業ま			用恵する	こと。							
才	フィスアワ	_	各授業日 17:00~19:00 M403 室											
	計画								1 m **					
回数	SBOs No.			授業	ド 内容				授業 方法	担当				
1	1)2)3)	病態	と薬物治療の概略						講義・SGD					
2	1)2)3)	発表	と質疑応答						SGD	比佐				
3	3)4)5)	治療	薬の種類と作用(1)討議						SGI	ン 比佐·鳥取部				
4	3)4)5)	治療	薬の種類と作用(2)討議・発表資料(乍成					SGI	D 比 佐				
5	3)4)5)	発表	と質疑応答						SGI) 比佐·鳥取部				
6	4)5)6)	治療	薬の問題点(1)討議						SGI	D 比 佐				
7	4)5)6)	治療	薬の問題点(2)討議・発表資料作成						SGI	D 比 佐				
8	4)5)6)	発表	と質疑応答、レポート作成						SGI	D 比佐·鳥取部				
9	5)6)7)	治療	薬の問題点への対処(1)討議						SGI	D 比 佐				
10	5)6)7)	治療	薬の問題点への対処(2)討議・発表	資料作成					SGI	D 比 佐				
11	5)6)7)	発表	と質疑応答、レポート作成						SGI	D 比佐·鳥取部				
12	3)~7)	最新	の知見 (1) 情報収集・討議						SGI	D 比 佐				
13	3)~7)	最新	の知見 (2) 論文講読・討議						SGI	D 比 佐				
14	3)~7)	最新	の知見(3)討議・発表資料作成						SGI	D 比 佐				
15	3)~7)	発表	と質疑応答、レポート作成				SGI	D 比佐·鳥取部						

参考書(著者名)出版社名【ISBN】

2023

	科目名		2023			授業コード	2 0 2 3 単位数		2 単(立
配当	当学科(学	年)	医療薬学研究科(1・2・3 年)		T	時間数	30 AL 科	目	0	
	担当者		2023	開講学期	2023 年度後期	必修•選択	選 択 授業刑		義、S	
	受業の概要 般目標(G		医療の観点から、身の回りに存在す 連を学び、充分な科学的根拠に基づ る。医療公衆衛生薬学特論では、栄 境要因の疾病予防効果、安全性・毒 培うことを目的とする。	き、健康の維 養・食品、保値 性の予測・評	持・増進および疾病の 建統計と疫学、感染症、 価ができ、QOL の向上	予測、評価、判 生活習慣病、ほ :および疾病の ⁻	断ができる能力を培う。 哉業病、毒性学等につい	ことは重要 ハて学び、	eであ 各種	5 重環
1) 身の回りの種々の環境要因を列挙し、各要因と健康・疾病との関連を概説できる。 2) 栄養素および食品と健康・疾病との関連を概説できる。 3) 有害化学物質の毒性発現機構および毒性の予測・評価法について概説できる。 4) 環境汚染物質が列挙でき、汚染防止対策について概説できる。 5) 生活習慣のリスクファクターを列挙でき、その予防法を生活習慣と関連づけて説明できる。 6) 保健統計指標を列挙し、各指標の意義について説明できる。 7) 疫学的研究手法について概説でき、研究手法として利用できる。 8) 感染症や関連する法律について概説できる。 実務経験のある 該当な										
	務経験の∂ 員による敎		該当なし							
	評価方法		レポートおよび口頭発表により、総合	的に単位認知	定を行う。					-
	準備学習 多上の注意		討論等に積極的に参加する。また、抗	受業時間外を	使って、レポート・発表	の準備等、15円	寺間の学習を行うこと。			
オ	フィスアワ	_	木村:月曜 16:30~17:30(M610 研9	(室)						
	計画	I						10 米	I	
回数	SBOs No.			授美	人 存			授業 方法	担	当
1	1)~4)	「健原	東と環境」概論					講義	木	村
2	5)6)	「公约	衆衛生学」概論 					講義	木	村
3	7)	疫学	的手法					SGD	木	村
4	1)~8)		要因・生活習慣と疾病・感染症との関 意義の発表・討議	連について <i>0</i>)レポート作成・討議課	題に基づいて学	習の主題を設定し、	SGD	木	村
5	1)~8)	学習	主題に関連する最新の英文論文を検	索し、選択・詞	寸議			SGD	黒	JII
6	1)~8)	論文	を読み、内容についての討議					SGD	黒	Щ
7	1)~8)	論文	を読み内容についての討議					SGD	黒	JII
8	1)~8)	学習	主題に関連する最新の英文論文を検	索し、選択・詞	寸議			SGD	黒	Ш
9	1)~8)	論文	を読み内容についての討議					SGD	白	崎
10	1)~8)	論文	を読み内容についての討議		SGD	白	崎			
11	1)~8)	学習	の主題との関連から、論文の内容の	要約∙発表∙討	計議			SGD	甲	斐
12	1)~8)	学習	っついてのレポート作成・討議					SGD	甲	斐
13	1)~8)	学習	の主題についての発表・討議					SGD	甲	斐
14	1)~8)	学習	の主題についての発表・討議					SGD	木	村
15	1)~8))~8) 学習の主題についてのレポート作成・討議								村

2023

参考書(著者名)出版社名【ISBN】

							Г		ı					
	科目名	2023				授業コード	2 0 2 3			2 単				
配当	当学科(学	年) 医療薬学研究	紀科(2・3 年)	1	T	時間数	30	AL科目	1	С)			
	担当者	2023		開講学期	2023 年度前期	必修•選択	必修	授業形		SGD,				
<u>-</u> ;	後業の概要 般目標(G	適化していくや薬効を客観判断能力を総1)病院薬局	臨床現場で医薬品の安全性について正しく理解・評価するために、レギュラトリーサイエンスの安全性の概念に基づき業務を最適化していく能力が必修なる。医療薬学基礎演習Ⅱでは、疾患を引き起こす可能性の予測、評価、判断する能力を養い、病態や薬効を客観的に評価することで医療の実践と進歩に貢献できる薬剤師となるために、充分な科学的根拠に基づく予測・評価・判断能力を総合的に活用できる能力を修得する。 1)病院薬局において、安全性にかかわる大きな問題点を挙げ、解決策、手法、結果の精査方法を討論する。											
	到達目標 (SBOs)	2) 保険薬局	こおいて、安全性にかれ	かわる大きな「	問題点を挙げ、解決策、 問題点を挙げ、解決策、	手法、結果の料	情査方法を討言	倫する。						
	多経験の	ある 科目担当者(比佐・吉田)は、臨床現		可超点を挙げ、解決策、 関での実務経験に基づ				多得を	目的と	الح			
	教員による教育 た授業を行う。 毎授業後に行う簡単な口頭試問やレポートにより、学習の進捗状況を把握し、フィードバックを行う。学習への取評価方法 ポート、プロダクト評価や口頭試問時の理解度、授業態度)の評点を 100%として単位認定を行う。評価の基準は明する。 準備学習・ 基礎知識を含めて毎回の授業での疑問点があれば些細なことでも質問するなどしてすぐに解決する態度が必要								は授業開始日に訪					
履修	多上の注意		15 時間の学習を行う											
	フィスアワ	一 各担当教員 <i>0</i>	オフィスアワーと同じて	である。 										
授業回	計画 SBOs								授業	<u> </u>				
数	No.				業 内 容				方法	. t.	旦当			
1	1)		-		判断・評価を最適化でる				演					
2	1)	病院薬局業務にお	ける医薬品の安全性に	対する予測・	判断・評価を最適化で	きる(2)。			演	当吉	田			
3	1)	病院薬局業務にお	ける医薬品の安全性に	対する予測・	判断・評価を最適化でる	きる(3)。			演	留 鳥	取部			
4	1)	病院薬局業務にお	ける医薬品の安全性に	対する予測・	判断・評価を最適化でき	きる(4)。			演	鳥	取部			
5	2)	保険薬局業務にお	ける医薬品の安全性に	対する予測・	判断・評価を最適化でき	きる(1)。			演	3 比	:佐			
6	2)	保険薬局業務にお	ける医薬品の安全性に	対する予測・	判断・評価を最適化で	きる(2)			演	図 比	:佐			
7	2)	保険薬局業務にお	ける医薬品の安全性に	対する予測・	判断・評価を最適化で	きる(3)			演	当 白	﨑			
8	2)	保険薬局業務にお	ける医薬品の安全性に	対する予測・	判断・評価を最適化で	きる(4)			演	当 白	﨑			
9	3)	在宅医療業務にお	ける医薬品の安全性に	対する予測・	判断・評価を最適化でる	きる(1)			演	望 木	村			
10	3)	在宅医療業務にお	ける医薬品の安全性に	対する予測・	判断・評価を最適化で	きる(2)			演	图 木	村			
11	3)	在宅医療業務にお	ける医薬品の安全性に	対する予測・	判断・評価を最適化でる	きる(3)			演	望 甲	隻			
12	3)	在宅医療業務にお	ける医薬品の安全性に	対する予測・	判断・評価を最適化でき	きる(4)			演音	3 甲	・斐			
13	1, 2, 3)	薬剤師業務におい	て医薬品の安全性に対	けする予測・判	断・評価を最適化できる	5(1)			演音	图 黒	<u> </u>			
14	1, 2, 3)	薬剤師業務におい	て医薬品の安全性に対	する予測・判	断・評価を最適化できる	6(2)			演	里 黒	<u> </u>			
15	1, 2, 3)	薬剤師業務におい	て医薬品の安全性に対	けする予測・判	断・評価を最適化できる	5(3)			演	图 黒	<u> </u>			
数お	. 建 / 荚 考 ·	A)出版社名【ISBN】	2023											

参考書(著者名)出版社名【ISBN】

	科目名	2023					授業コード	2 0 2 3	単位数	2	単位	<u>ነ</u>
配当	当学科(学	年) 医療薬学研究科	斗(1・2・3 年)		ı		時間数	30	AL 科目		0	
	担当者	2023		開講学期	2023 年 度		必修•選択	選択	授業形態		義、So	
	受業の概要 般目標(GI	新の知識を基にって、個々の患: ものである。 (O) 臨床薬学特論] して判断できるはお薬手帳など医おける医薬品遊	は、医薬品を適正に使用 ・患者への服薬指導 者に対する薬物療法の では、医薬品適正使 能力を培うことを目的に 薬品適正使用サポー に使用に重要な事項	や医療従事 り有効性を予 用のためにこ、服薬指導 ト手段の役割 とその科学的	者への医薬品が測、評価そし、個々の患者に ・個々の患者に ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	情報提供 て判断す における な薬物相望 な活用方法	は・使用方法提系 る能力は、指導 薬物療法の効果 互作用とその回 法等について修	となどの指導や 前的立場に立つ とを科学的根拠 避方法につい	提案を行うこ 薬剤師にとっ 生に基づいてう ての科学的根	とに で不 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	なる。 可欠 評価 解明	従なそい
	到達目標 (SBOs)	2) 医薬品の効: 3) 医薬品の効: 4) 服薬指導の 5) 薬物相互作 6) セルフメディ・ 7) 医薬品適正	果及び副作用の発現を 果及び副作用を適切に 果及び副作用評価後の 根拠について説明でき 用の根拠と回避方法に ケーションの適切な実 使用サポート手段につ	に評価できる D対応を適り る。 こついて説明 施方法につ	。 別に判断できる できる。 ハて説明できる							
	務経験のな 員による教	• •										
	評価方法	3回のレポートを	を 50%、口頭発表を 50	0%として総	括的評価を行	い単位認	定する。					
	準備学習・ 多上の注意	珍辛時間がに	5 時間の学習を行うこ	٤٤.								
オ	フィスアワ	— 18:00~19:00 担	当教員の研究室									
	計画	•							127	Alle.		
回数	SBOs No.			授美	人 存				授 方	亲 法	担	当
1	1)~4)	服薬指導事項に関す	る知識を確認し、理解	する。					講	義	鈴	木
2	1)~4)	服薬指導に関する論	文を読み内容について	に討議する。					s c	G D	鈴	木
3	1)~4)	服薬指導に関する論	文を読み内容について	こ討議する。		指導に関する論文を読み内容について討議する。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						
4	1)~4)		信導に関する論文を読み内容について討議する。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・									
5	1)~4)	服薬指導の科学的根	拠について要約し、発		する。				s c		鈴	木
ļ	1)2)3) 5)		拠について要約し、発	表して討議	する。					G D		木田
6	1)2)3) 5) 1)2)3)	薬物相互作用に関す		表して討議する。	<u> </u>				s c	â D 義	園	
6	1)2)3) 5) 1)2)3) 5) 1)2)3)	薬物相互作用に関す薬物相互作用に関す	る知識を確認し、理解	表して討議 する。 ついて討議す	- る。				S (ã D 義 ã D	遠	田田
	1)2)3) 5) 1)2)3) 5) 1)2)3) 5) 1)2)3)	薬物相互作用に関す薬物相互作用に関す薬物相互作用に関す	る知識を確認し、理解る論文を読み内容につ	表して討議 する。 ついて討議す ついて討議す	ā.				s (講	ã D 義 ã D	園園	田田
7	1)2)3) 5) 1)2)3) 5) 1)2)3) 5) 1)2)3) 5) 1)2)3)	薬物相互作用に関す 薬物相互作用に関す 薬物相互作用に関す 薬物相互作用の科学	る知識を確認し、理解る論文を読み内容にこる論文を読み内容にこる	表して討議 する。 ついて討議す ついて討議す し、発表して	る。 る。 計議する。				s (講 s (ã D 義 ã D ã D	園園園	田 田 田
7	1)2)3) 5) 1)2)3) 5) 1)2)3) 5) 1)2)3) 5) 1)2)3) 6) 1)2)3)	薬物相互作用に関す 薬物相互作用に関す 薬物相互作用に関す 薬物相互作用の科学 セルフメディケーション	る知識を確認し、理解る論文を読み内容になる論文を読み内容になる論文を読み内容にな	表して討議する。 ついて討議す ついて討議す し、発表して し、理解する	る。 る。 計議する。				s (講 s (s (ã D 義 ã D ã D	園園園	田田田田高
7 8 9	1)2)3) 5) 1)2)3) 5) 1)2)3) 5) 1)2)3) 6) 1)2)3) 6) 1)2)3)	薬物相互作用に関す 薬物相互作用に関す 薬物相互作用に関す 薬物相互作用の科学 セルフメディケーション セルフメディケーション	る知識を確認し、理解る論文を読み内容にでる論文を読み内容にでいて要約したのは、 の根拠について要約しては関する知識を確認	表して討議する。 ついて討議すついて討議すし、発表してし、理解する	-る。 -る。 計議する。 o。 て討議する。				まで まで まで まで まで	ã D 義 ã D ã D	園園園	田田田田高
7 8 9 10	1)2)3) 5) 1)2)3) 5) 1)2)3) 5) 1)2)3) 5) 1)2)3) 6) 1)2)3) 6) 1)2)3)	薬物相互作用に関す 薬物相互作用に関す 薬物相互作用の科学 をルフメディケーション セルフメディケーション	る知識を確認し、理解る論文を読み内容にでる論文を読み内容にでいて要約していて要約して関する知識を確認いに関する論文を読み	表して討議する。 ついて討議すついて討議す し、発表して し、理解する 内容につい	-る。 -る。 計議する。 で計議する。 で計議する。	ける。			まで まで まで まで まで	義 D 義 D 義 D 義 D 表	園園園	田田田田高高高
7 8 9 10	1)2)3) 5) 1)2)3) 5) 1)2)3) 5) 1)2)3) 5) 1)2)3) 6) 1)2)3) 6) 1)2)3) 6) 1)2)3)	薬物相互作用に関す 薬物相互作用に関す 薬物相互作用の科学 セルフメディケーション セルフメディケーション セルフメディケーション セルフメディケーション	る知識を確認し、理解る論文を読み内容にこる論文を読み内容にこめ根拠について要約して関する知識を確認いに関する論文を読みいに関する論文を読み	表して討議する。 ついて討議すっいて討議すっいで討議すった発表していた。 の、理解する 内容について 内容について のである。	-る。 -る。 計議する。 で計議する。 で計議する。	ける。			まで まで まで まで まで まで	義 D 義 D 義 D i D D	園園園園田日日	田田田田高高高高
7 8 9 10 11	1)2)3) 5) 1)2)3) 5) 1)2)3) 5) 1)2)3) 6) 1)2)3) 6) 1)2)3) 6) 1)2)3) 6)	薬物相互作用に関す 薬物相互作用に関す 薬物相互作用の科学 セルフメディケーション セルフメディケーション セルフメディケーション セルフメディケーション セルフメディケーション を薬品適正使用サポ	る知識を確認し、理解る論文を読み内容につる論文を読み内容について要約した関する知識を確認いに関する論文を読み に関する論文を読み	表して討議する。 ついて討議すっいて討議すっいで対議すった。 のいて対議すった。 の、発展する 内容について 内容について なを確認し、 が、また。 ないではないではないではないではない。	-る。 -る。 計議する。 て計議する。 て計議する。 を表して計議す				まで まで まで まで まで まで まで まで まで まで まで まで まで ま	義 D 義 D 義 D i D D	園園園田日日日	田田田田田高高高高高
7 8 9 10 11 12	1)2)3) 5) 1)2)3) 5) 1)2)3) 5) 1)2)3) 5) 1)2)3) 6) 1)2)3) 6) 1)2)3) 6) 1)2)3) 7)	薬物相互作用に関す 薬物相互作用に関す 薬物相互作用に関す 薬物相互作用の科学 セルフメディケーション セルフメディケーション セルフメディケーション セルフメディケーション を薬品適正使用サポ 医薬品適正使用サポ	る知識を確認し、理解る論文を読み内容にでる論文を読み内容にでいて要約した関する知識を確認いに関する論文を読みいに関する論文を読みいに関する論文を読みいの科学的根拠につい	表して討議する。 ついて討議すっいて かいて対表を は、理解する 内容について 内容でのいいででである。 なでである。 なでは、 なでである。 なでは、 なでは、 なでは、 なでは、 なでは、 なでは、 なでは、 ないでは、 とっと。 ないでは、 とっと。 ないでは、 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と	-る。 -る。 計議する。 で討議する。 で討議する。 を表して討議する。 里解する。				まで まで まで まで まで まで まで まで まで まで まで まで まで ま	義 D 義 D 義 D a 義 D a 義 D	園園園 田田田田田	田田田田高高高高高高
7 8 9 10 11 12 13 14	1)2)3) 5) 1)2)3) 5) 1)2)3) 5) 1)2)3) 5) 1)2)3) 6) 1)2)3) 6) 1)2)3) 6) 1)2)3) 7) 1)2)3) 7) 1)2)3) 7)	薬物相互作用に関す 薬物相互作用に関す 薬物相互作用に関す 薬物相互作用の科学 セルフメディケーション セルフメディケーション セルフメディケーション セルフメディケーション を薬品適正使用サポ 医薬品適正使用サポ	る知識を確認し、理解 る論文を読み内容になる論文を読み内容にないて要約した関する知識を確認 いに関する論文を読み いに関する論文を読みいに関する論文を読みいの科学的根拠につい ート手段に関する知識 ート手段に関する論文	表して討議する。 ついて討議すっいて かいて対表を は、理解する 内容について 内容でのいいででである。 なでである。 なでは、 なでである。 なでは、 なでは、 なでは、 なでは、 なでは、 なでは、 なでは、 ないでは、 とっと。 ないでは、 とっと。 ないでは、 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と	-る。 -る。 計議する。 で討議する。 で討議する。 を表して討議する。 里解する。				まで まで まで まで まで まで まで まで まで まで まで まで まで ま	義 D 義 D á D á D 義 D á D 義 D	園園園日日日日日	田田田田高高高高高高

参考書(著者名)出版社名【ISBN】

	科目名		2023				授業コード	2 0	2 3	単位数	2 単	位
配当	当学科(学	年)	医療薬学研究科(1・2・3年)				時間数	3	80	AL 科目	0)
	担当者		2023	開講学期	2023 年度	前期	必修·選択	選	択	授業形態	演習・	SGD
	授業の概要・ 一般目標(GIO)		チーム医療において、薬剤師には疾められる。すなわち、薬剤師は個々の務を担っている。 臨床薬学特論ITでは、個々の患者にな目的とする。指導的立場に立ち医を科学的根拠に基づいて評価する能法、また臨床試験実施のための試験	の患者の薬物 における治療系療により貢献 により貢献 に力を身に付い 計画法などを	療法の問題を 効果を科学的机できる薬剤師に ナ、治療の有効 上修得する。	把握し、 艮拠に基こなるたる 性や有質	医薬品情報を聞 づいて予測、評 かに、症例の提 害性の科学的語	福床応用価そして 示に対し 下価法、	して薬・ て判断で して患者	学的提案を行 きる能力を培 の病態およひ	うという うことを 「薬物治	任主療
実利	到達目標 (SBOs)	ある	1) 臨床検査値、検査所見、理学所見 2) TDM が必要な医薬品について、 3) 薬物動態に影響を及ぼす要因を 4) 症例に対して科学的根拠に基づし 5)薬物治療におけるファーマコビジョ 6) 薬物療法または栄養治療における	血中濃度の解 列挙し、それに いた最適な治 ランスの意義を	析および処方詞 こついて説明で 療法の提案が を説明できる。	設計ができる。 できる。	きる。) o			
	員による教 評価方法	ŧ	学習への取り組み姿勢(授業での積 (50点)により総合的に評価して点数			こ50 点	気)および授業後	後の簡単	色な口頭	試問またはレ	ポートቦ	内容
	準備学習 [·] 多上の注意		授業時間外に 15 時間の学習を行う	こと。								
_	フィスアワ	,	在室時適宜									
7	71/7/	<i></i>	11 主时迎且									
- 受業	計画	, — 	1工主时观点							招当	ě .	
- 受業 回	計画 SBOs No.				業内容					授第	去 ¹	旦坐
· 受業 可 数	計画 SBOs No. 1)4)	症例	提示(1):患者の臨床状態の問題点を	挙げ、その対	策を提案する。					方法 演習・Si	去 ^t GD 鈴	i 7
· 受業 可 数	計画 SBOs No.	症例		挙げ、その対	策を提案する。					方法	去 ^t GD 鈴	i 7
受業の数	計画 SBOs No. 1)4)	症例	提示(1):患者の臨床状態の問題点を	挙げ、その対題解決策の是	策を提案する。	0	0			方法 演習・Si	BD 鈴GD 鈴	i 2
受 可 数	SBOs No. 1)4)	症例症例症例	提示(1):患者の臨床状態の問題点を 提示(1):患者の臨床状態に対する問	挙げ、その対 題解決策の見	策を提案する。	対議する	0			方法 演習·SI	去 [#] GD 鈴GD 鈴	i 7
受業 回数	計画 SBOs No. 1)4) 1)4)	症例症例症例症例	提示(1):患者の臨床状態の問題点を 提示(1):患者の臨床状態に対する問 提示(1):栄養療法における治療効果	挙げ、その対 題解決策の見 の評価法にて 挙げ、その対	策を提案する。 是非を討議する のいて提案し、言 策を提案する。	対議する				方 注 演習·SI 演習·SI	去 [#] GD 鈴GD 鈴GD 鈴	i 7
受	SBOs No. 1)4) 1)4) 1)4)6) 1)3)4) 1)~4) 2)3)4)	症例症例症例症例	提示(1):患者の臨床状態の問題点を 提示(1):患者の臨床状態に対する問 提示(1):栄養療法における治療効果 提示(2):患者の臨床状態の問題点を	挙げ、その対 題解決策の見 の評価法にて 挙げ、その対 態学的に解析	策を提案する。 是非を討議する のいて提案し、記 策を提案する。 所し、投与プラン	対議する				方 : 方 : 注 :	去 GD 鈴 GD 鈴 GD 鈴	7
受回数	SBOs No. 1)4) 1)4) 1)4)6) 1)3)4) 1)~4)	症例症例症例症例症例症例	提示(1):患者の臨床状態の問題点を 提示(1):患者の臨床状態に対する問 提示(1):栄養療法における治療効果 提示(2):患者の臨床状態の問題点を 提示(2):治療薬の血中濃度を薬物動	挙げ、その対 題解決策の見 の評価法につ 挙げ、その対 態学的に解析 当性を論文に	策を提案する。 是非を討議する かいて提案し、記 策を提案する。 所し、投与プラン 基づいて討議	が 対議する か いを立案 する。				方 : 方 : 注 :	大 THE GD \$\phi\$	1 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7
受可数	SBOs No. 1)4) 1)4) 1)4)6) 1)3)4) 1)~4) 2)3)4) 6)	症例例如症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症	提示(1):患者の臨床状態の問題点を 提示(1):患者の臨床状態に対する問 提示(1):栄養療法における治療効果 提示(2):患者の臨床状態の問題点を 提示(2):治療薬の血中濃度を薬物動 提示(2):患者個別の投与プランの妥	挙げ、その対 題解決策の見 の評価法につ 挙げ、その対 態学的に解析 当性を論文に 挙げ、その対	策を提案する。 是非を討議する のいて提案し、言 策を提案する。 所し、投与プラン 基づいて討議 策を提案する。	が 対議する か いを立案 する。				方 : 方 : 注 :	the state of the	
受回数	SBOs No. 1)4) 1)4) 1)4)6) 1)3)4) 1)~4) 2)3)4) 6) 1)4)	症烦例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例	提示(1):患者の臨床状態の問題点を 提示(1):患者の臨床状態に対する問 提示(1):栄養療法における治療効果 提示(2):患者の臨床状態の問題点を 提示(2):治療薬の血中濃度を薬物動 提示(2):患者個別の投与プランの妥言	挙げ、その対 題解決策の見 の評価法につ 挙げ、その対 態学的に解析 当性を論文に 挙げ、その対 策の是非を診	策を提案する。 是非を討議する のいて提案し、言 策を提案する。 所し、投与プラン 基づいて討議 策を提案する。 計議する。	が 対議する ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ する。	する。			方法 漢習·SI 漢習·SI 漢習·SI 漢習·SI 漢習·SI	表 ft GD 鈴 GD ๑ GD 扇	
受回数	SBOs No. 1)4) 1)4) 1)4)6) 1)3)4) 1)~4) 2)3)4) 6) 1)4)	症烦例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例例	提示(1):患者の臨床状態の問題点を 提示(1):患者の臨床状態に対する問 提示(1):栄養療法における治療効果 提示(2):患者の臨床状態の問題点を 提示(2):治療薬の血中濃度を薬物動 提示(2):患者個別の投与プランの妥当 提示(3):薬物療法における問題点を 提示(3):患者治療における問題解決	挙げ、その対 題解決策の見 の評価法につ 挙げ、その対 態学的に解析 当性を論文に 挙げ、その対 策の是非を記 をもとに最適	策を提案する。 是非を討議する のいて提案し、記 策を提案する。 所し、投与プラン 基づいて討議 策を提案する。 は議する。	が 対議する シンを立案 する。	する。			方法 漢習・Si 漢習・Si 漢習・Si 漢習・Si 漢習・Si 漢習・Si	the state of the	
受可数	SBOs No. 1)4) 1)4) 1)4)6) 1)3)4) 1)~4) 2)3)4) 6) 1)4) 4)5)	症症症症症症症症症症症症	提示(1):患者の臨床状態の問題点を 提示(1):患者の臨床状態に対する問 提示(1):栄養療法における治療効果 提示(2):患者の臨床状態の問題点を 提示(2):患者の臨床状態の問題点を 提示(2):患者個別の投与プランの妥当 提示(3):薬物療法における問題点を 提示(3):連者治療における問題解決 提示(3):医薬品の使用実態データ等	挙げ、その対 題解決策の見 の評価法につ 挙げ、その対 態学的に解析 当性を論文に 挙げ、その対 策の是非を記 をもとに最適。	策を提案する。 是非を討議する のいて提案し、記 策を提案する。 所し、投与プラン 基づいて討議 策を提案する。 は論する。 な治療法を提案 、な治療法を提案する。	が 対議する シンを立案 する。	する。			方法 演習·SI 演習·SI 演習·SI 演習·SI 演習·SI 演習·SI 演習·SI	the control of the contr	i
受回数	SBOs No. 1)4) 1)4) 1)4)6) 1)3)4) 1)~4) 2)3)4) 6) 1)4) 4)5) 4)5)6)	症症症症症症症症症症症症	提示(1):患者の臨床状態の問題点を 提示(1):患者の臨床状態に対する問 提示(1):栄養療法における治療効果 提示(2):患者の臨床状態の問題点を 提示(2):患者個別の投与プランの妥当 提示(3):薬物療法における問題点を 提示(3):連者治療における問題点を 提示(3):患者治療における問題解決 提示(3):医薬品の使用実態データ等 提示(4):患者の臨床状態の問題点を	挙げ、その対 題解決策の是 の評価法につ対 態学的に解析 当性を論文に 挙げ、その対 策の是非を記 をもとに最適 挙げ、その対	策を提案する。 是非を討議する のいて提案し、記 策を提案する。 所し、投与プラン 基づいて討議 策を提案する。 は治療法を提案 な治療法を提案 で表表を提案する。	対議する。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	する。			方法 遠習・Si 漢習・Si 漢習・Si 漢習・Si 漢習・Si 漢習・Si 漢習・Si	the second of t	
受回数 2 3 4 5 7 3 9 0 1 2	SBOs No. 1)4) 1)4) 1)4)6) 1)3)4) 1)~4) 2)3)4) 6) 1)4) 4)5) 4)5)6) 1)4)	症症症症症症症症症症症症症	提示(1):患者の臨床状態の問題点を 提示(1):患者の臨床状態に対する問 提示(1):栄養療法における治療効果 提示(2):患者の臨床状態の問題点を 提示(2):患者個別の投与プランの妥: 提示(3):薬物療法における問題点を 提示(3):患者治療における問題点を 提示(3):患者治療における問題解決 提示(3):患者治療における問題解決 提示(4):患者の臨床状態の問題点を 提示(4):患者の臨床状態に対する問	挙げ、その対 題解決策の是 の評価法につ対 態学的に解析 当性を論文に 挙げ、その対 策の是ましま 適対 をもとに最の対 をもとによるの対 をもとによるの対 なが、そのが が、その対 ない。	策を提案する。 是非を討議するのいて提案し、言 策を提案する。 所し、投与プラン 基づいて討議 策を提案する。 は治療法を提案する。 な治療法を提案する。 な治療法を提案する。	対議する。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	する。			方法 遠習 SI 演習 SI 演習 SI 漢習 SI 漢習 SI 漢習 SI 漢習 SI 漢習 SI 漢習 SI 漢習 SI 漢習 SI	大 fine GD sh GD<	
	SBOs No. 1)4) 1)4) 1)4)6) 1)3)4) 1)~4) 2)3)4)6) 1)4) 4)5) 4)5)6) 1)4) 3)4)6)	症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症	提示(1):患者の臨床状態の問題点を 提示(1):患者の臨床状態に対する問 提示(1):栄養療法における治療効果 提示(2):患者の臨床状態の問題点を 提示(2):患者個別の投与プランの妥: 提示(2):患者個別の投与プランの妥: 提示(3):薬物療法における問題点を 提示(3):患者治療における問題点を 提示(3):患者治療における問題点を 提示(3):患者治療における問題解決 提示(4):患者の臨床状態の問題点を 提示(4):患者の臨床状態に対する問 提示(4):患者の臨床状態に対する問 提示(4):利学的根拠に基づいて最適	挙げ、その対題解決策の是の評価法につ対します。というでは、その対象をというでは、その対象をというでは、その対象をというできません。対象をは、その対象をは、その対象をは、その対象をは、その対象をは、その対象をは、その対象をは、その対象をは、その対象をは、その対象をは、その対象をは、その対象をは、その対象をは、その対象をは、その対象をは、その対象をは、その対象をは、その対象をは、またが、は、その対象をは、そのは、そのは、そのは、そのは、そのは、そのは、そのは、そのは、そのは、その	策を提案する。 是非を討議する のいて提案する。 策を提案する。 所し、投与プラン 基で提案する。 議する。 な治療を提案する。 な治療と表する。 と非を討議する。 とまをはいいでは、 な治療をはいいでは、 な治療をはいいでは、 な治療をはいいでは、 な治療をはいいでは、 な治療をはいいでは、 な治療をはいいでは、 な治療をはいいでは、 な治療をはいいでは、 な治療をはいいでは、 な治療をはいいでは、 な治療をはいいでは、 な治療をはいいでは、 なっと。 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 なっと。 なっと。 ないでは、 な。 なっと。 なっと。 なっと。 なっと。 なっと。 なっと。 なっと。 な	対議する。シンを立案する。	する。			方法 漢習・Si 漢習 Bi 漢習 Bi	大 THE STATE OF THE STAT	

参考書(著者名)出版社名【ISBN】

2023

科	目名	2023					授業コード	2 0	2 3	単位数	2 単	 並 位	
配当学	科(学年	医療薬学研究科	斗(1•2•3 年)				時間数	3	0	AL 科目	O)	
担	 <u>!</u> 当者	2023		開講学期	2023 年 5	度 前 期	必修•選択	選	択	授業形態	講義、実習	習、SGD	
	の概要・ 目標(GIO)	バイタルサインが 論では、薬物に 床の場において を用い薬物投与 な薬物投与を行	これからの薬剤師業務においては、治療薬の有効性の予測、評価、判断ができる臨床能力に長けた薬剤師を養成するために、バイタルサインなどの生体反応を正確に把握できるフィジカルアセスメント技術の習得が不可欠である。フィジカルアセスメント特論では、薬物による生体反応を把握する技術とその理論および薬物生体内分布とその効果について学び、ベッドサイドを含む臨床の場において治療薬の有効性の予測、評価、判断能力を培うことを目的とする。具体的には、種々の高性能生体シミュレータを用い薬物投与による病態変化を再現しながら、それらの病態から薬物の有効性を把握させる能力を修得させる。さらに、有効な薬物投与を行うには吸収、分布、代謝、排泄を考慮する必要があるが、なかでも、タンパク結合が大きく関与する薬物の分布は標的組織への薬物移行量を反映し効果に直結するため、それらを予測、評価そして判断するための手法についても学ぶ。										
	達目標 (BOs)	2)種々の心音: 3)薬剤性アナス 治療の有効性を 4)血清タンパク 5)血清タンパク 6)疼痛患者の 7)フィジカルアで 8)ガン疼痛緩利 9)透析時の注	が質や膜輸送タンパク質の結合サイトの結合だいがイタルサインや臨床セスメントと生体内分での方法を提示できる。	職や肺の機能 ム血症、高血質の生体内分能の経時的 検査値係から、 たの関係から。	・器質から理 ・精などの病 ・分布について 変化から薬物 適切な鎮痛 薬物の効果	融的に説 態変化を理 説明できるの移行性を 薬を選択し を改善する	写現した高性能 る。 を推測できる。 こ効果的な投与 る方法を討議し	法を提え説明でき	示できる きる。	j _o			
教員に	経験のある □よる教育 西方法	よび演習を行う	薬剤師と医師が担当 。 ことにより学習成果 <i>の</i>										
	#学習・ :の注意等	授業時間外に 1	5 時間の学習を行うこ	ے۔									
	スアワー		 構義した場所で行う。										
授業計画										40	41k		
	BOs No.			授 第	人 内 容					授 方:	法 1	担当	
1 1)	-		を 仕野し シロ・ロー							講		永高村	
2 2)			を体験し心臓や肺の							実		永•高村	
3 3))	※ 剤性アナフィラキシ	一などを体験し病態と	治療法を理	解する。 ————					実	習 徳	永•高村	
4 4)) ф	1清タンパク質や膜軸	前送タンパク質の生体	内分布の差	異を調べ、理	解する。				講		村	
5 4)5)5) <u>f</u> f	1清タンパク結合能の	D経時的変化と薬物移	3行性につい	て調べ、理解	!する。				講	義高	村	
6 6)) /	痛時のバイタルサイ	イン変化と臨床検査値	変化の関係	を調べ、理解	する。				講	義高	村	
7 4))~7)	智主題に関連する	最新の英文論文を検	素し、選択し ⁻	て討議する。					S G	D 緒	方	
8 4))~7) 請	主文を読み内容につ	いて討議する。							s G	D 緒	省 方	
9 4))~7)	文を読み内容につ	いて討議する。							S G	D 緒	1 方	
10 4))~7)	智の主題との関連	から、論文の内容を要	 !約し、発表し	 て討議する。	0				S G	D 興	₹ 梠	
11 4))~7)	・ 文を読み内容につ	いて討議する。							S G	D 興	具 梠	
12 4))~7)	i文を読み内容につ	いて討議する。							S G	D 興	見 梠	
13 4))~9)	空習の主題との関連	から、論文の内容を要	 「約し、発表し	て討議する。					S G	D 戸	井田	
14 4))~9)	学習の主題について	レポートを作成して討	議する。						S G	D 戸	井田	
)~9)	学習の主題について	発表し、討議する。							S G	D 戸	井田	
15 1)	· · · ·)							"	_ '		

参考書(著者名)出版社名【ISBN】

必要に応じレジュメを配布。 薬のうごきを「みえる化」する:一目で伝わる ADME 図鑑(南山堂):髙村が担当の時使用

	科目名	20:	23				授業コード	2 0 2 3	単位数	2 単位
配	当学科(学	年) 医	療薬学研究科	l(1・2・3 年)			時間数	30	AL 科目	0
	担当者	20:	23		開講学期	2023 年度前期	必修•選択	選択	授業形態	義、演習、SGD
	授業の概要・ 一般目標(GIO)		ム医療に貢献、微生物はたいないのでは、微生の抗他にたいたいにないない。 かんしい はんしい はん	できる薬剤師の育成 成する様々な生理活 治療に大きく変貌し 物療法にはじまり、 ができる能力を培うこ 1管内皮障害、透過性	を目的とする 性物質への でつかに制御・る。 炎症制的とする。 とを目的とす とう進などの とな関連酵素	する能力を身につけ、 る。感染症治療に対する 対応や感染に伴う宿主 こで、感染症治療薬学や 主免疫制御を加えた感 る。そのために、従来 炎症学的パラメーターで 気の遺伝多型について 習得する。	5概念は、微生物の反応の制御を持論では、新しい ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	物を排除することを適切に行うことい感染症の治療に治療する薬剤 会効果のみならずる手法を習得する手法を習得する	とを中心としただで、「よりきれん」で、「よりきれんの概念を基礎しの選択・有効性ず、感染病態にる。 さらに、重要	治療に加いに治す」 こ、各種 の予測、 関連する 要な宿主
	到達目標 (SBOs) 務経験の&	2) 3) 4) 5) 6) 7)	感染症とは何感染症におり 抗微生物薬 感染症におり 感染症におり 感染症の病態	の特徴を概説できる。 「かを概説できる。 ける炎症・免疫の宿主 こついてそれぞれのやける病態的特徴を説明 き形成因子についてに における薬剤師の役	特徴を列挙で 明できる。 概説し、それ!	きる。 こ対する治療を考える。	ことができる。			
教	員による教	育								
	評価方法 論文発表やレポートを総合的に評価する。 準備学習・ 感染症に関する基礎知識について、あらかじめ学習しておく。									
	キ 帰 子 日 修上の注意			5時間の学習を行う		10 C 03 V 0				
オ	フィスアワ	一 毎	週 月~木 1	7-20 時						
授業	≹計画 SBOs I								授業	
数	No.				授	大学 大学			方法	担当
1	1)-7)		に関する論文(講義、演習	吉田
2	1)-7)	感染症!	に関する論文の	の査読1-2					講義、演習	吉田
3	1)-7)	感染症に	に関する論文の	の査読 2-1					講義、演習	吉田
4	1)-7)	感染症に	に関する論文の	の査読 2−2					講義、演習	吉田
5	1)-7)	感染症に	に関する論文の	の査読 3-1					講義、演習	吉田
6	1)-7)	感染症に	に関する論文の	の査読 3-2					講義、演習	吉田
7	1)-7)	感染症に	こ関する既読	論文のまとめ					講義、演習	吉田
8	1)-7)	感染症に	に関する論文の	の査読 5−1					講義、演習	黒川
9	1)-7)	感染症に	に関する論文の	の査読 5−2					講義、演習	黒川
10	1)-7)	感染症!	こ関する論文の	 の査読 6-1					講義、演習	黒川
11	1)-7)	感染症に		 の査読 6−2					講義、演習	黒川
12	1)-7)	感染症!	に関する論文の						講義、演習	黒川
13	1)-7)	感染症!	に関する論文の	 の査読 7−2					講義、演習	黒川
14	1)-7)		に関する論文の						講義、演習	
15	1)-7)	感染症に	に関する総合	 討論					SGD	黒川、吉田
			:名【ISBN】	2023					1	

参考書(著者名)出版社名【ISBN】

	科目名	2023					授業コード	2 0 2 3	単位数		2 .	単位	Ī.	
配当	当学科(学	年) 医療薬	学研究科	J(2•3 年)			時間数	30	AL 科目			0		
	担当者	2023			開講学期	2023 年度後期	必修•選択	必 修	授業形態	態	SGE), 演	(習	
	業の概要 般目標(GI	総合的I 最適化I 院薬局、 討結果	こ活用で していく前 、保険薬 を客観的	きることを目的として も力の向上を目指す。 局、在宅医療の場に に評価し総括する能	いる。即ち、 。具体的には おいて、問題 わを修得する		ギュラトリーサイ 設定におけるシ 設定でき、課題	イエンスの有効性 レミュレーションを 逐行の手法を	生の概念(を演習形:	こ基 [*] 式で(づき業 体験し	美務: し、症	を 病	
	到達目標 (SBOs)	2) 保険 3) 在宅	薬局において、レギュラトリーサイエンスの有効性の概念に基づき業務を最適化できる。 薬局において、レギュラトリーサイエンスの有効性の概念に基づき業務を最適化できる。 医療において、レギュラトリーサイエンスの有効性の概念に基づき業務を最適化できる。											
	务経験のま 員による教													
	評価方法	3 回のし				括的評価を行い、単位					0 -			
	隼備学習・ §上の注意	問題に	関係する		あらかじめ添	ご、計 60 時間の予習・役付文書をダウンロードで								
オ	フィスアワ	一 毎週月	曜~金曜	置日 各教員が示して	いるオフィス	アワーに準じる。								
	計画									授業	Ł			
回 数	SBOs No.				授業	人 内容				按 ^隶 方法		担	当	
1	1)	病院薬局業務	別における	る医薬品の有効性の	予測ができる) ₀				演		鈴	木	
2	1)	病院薬局業務	路における	る医薬品の有効性の	評価ができる) ₀				演	習:	鈴	木	
3	1)	病院薬局業務	路における	る医薬品の有効性の	判断ができる)				演	習	日	高	
4	1)	病院薬局業務	落における	る医薬品の有効性の	最適化ができ	きる。				演	習	日	高	
5	1)	病院薬局業務	外における	る医薬品の有効性を	総合的に討議	養する。				S G	D j	戸井	田	
6	2)	保険薬局業務	別における	る医薬品の有効性の	予測ができる	D _o				演	習	徳	永	
7	2)	保険薬局業務	外における	る医薬品の有効性の	評価ができる	,)。				演	習	徳	永	
8	2)	保険薬局業務	らにおける かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしゅう かんしゅう かんしゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう	る医薬品の有効性の	判断ができる	, ,				演	習	亰	田	
9	2)	保険薬局業務	路における	る医薬品の有効性の	最適化ができ	き る。				演	習 [遠	田	
10	2)	保険薬局業務	といおける	る医薬品の有効性を	総合的に討議	 養する。				s G	D ,	黒	Ш	
11	3)	在宅医療業務	外における	 る医薬品の有効性の	予測ができる) ₀				演	習	髙	村	
12	3)	在宅医療業務	外における	る医薬品の有効性の	評価ができる) ₀				演	習:	髙	村	
13	3)	在宅医療業務	多における	 る医薬品の有効性の	判断ができる) ₀				演	習	緒	方	
14	3)	在宅医療業務	外における	 る医薬品の有効性の	最適化ができ	きる。				演	習	緒	方	
15	3)	在宅医療業務	路における	る医薬品の有効性を	総合的に討講	養する。			:	S G	D j	戸井	·田	
教科	.書(著者	名)出版社名【I	SBN]	2023							I			
参考	書(著者名	名)出版社名【I	SBN]	必要に応じレジュメ	を配布。									

	科目名	2023				授業コード	2 0	2 3	単位数	2 単	i位
配当	4学科(学	年) 医療薬	薬学研究科(1年)			時間数	3	30	AL 科目	С)
	担当者	2023		開講学期	2023 年度前期	必修・選択	必	修	授業形態	講義、	演習
	業の概要 般目標(Gl	ために る能力 (O) 特論で 的・化	見場において指導的立場に立 こ、問題点を抽出し検討課題を 」、さらに、成果を公表し社会に では、基礎薬学・医療系の英文 学的な実験手技、②データの ポート・論文の作成方法等を等	設定する能力 二還元する能力 三学術論文およ 統計学的解析	」、課題遂行の手法を選 」が求められる。それら 、び実験調査データ等を 、情報処理、文献デー	≹択し実施する負 の能力を培うた を題材とし、①研 タベースの活用	E力、検 めの基 究の進 、③医	討結果 本的素類 め方、等 学薬学領	を客観的に評 養として、薬学 学術論文の構 関域に用いられ	価し総研究方成、生物 研究方式 である できまる できまる できまる できまる できまる できまる できまる できま	括す 5法 物学 文表
	到達目標 (SBOs)	2) 研 3) 主 4) 適 5) 文 6) 薬	術論文の成り立ちを説明できる 究の目的・意義および手法の な生物学的・化学的実験手技 切な統計学的検定方法を選択 献データベースを活用し情報を の製造や服用に関して必要な 究の目的・意義を英文で表現	妥当性を評価 を説明できる。 とレデータを解 を取捨選択でき 責任や倫理街	折できる。 きる。						
	§経験のな 員による教										
Ī	評価方法	3 回 <i>0</i> .)レポート及びプレゼンテーショ	ン等を総合的	に評価する。						
	準備学習∙ §上の注意		りに質疑応答すること。 果題を出すので、次回の授業す	までに完成させ	ておくこと。						
	フィスアワ		業日 17:00~19:00(各担当者居								
業	計画										
到し数	SBOs No.			授 美	人 本				授美		担当
	1)7)	論文を読む	(1) abstract から研究の全体値	象を読み取る。					講義、演		<u>.</u> 1
	1)2)7)	論文を読む	(1) 研究テーマの設定方法を	考える。					講義、消	習上	: 1
	1)2)3) 7)	論文を読む	(1) どのような研究手法・手技	があるのかを	知る。				講義、消	習比	5 1
	1)2)4)	論文を読む	(1) 研究成果とその意義の伝	え方を考える。					講義、演	習比	5 1
	3)4)	データの成	り立ちに合わせた統計学的検	定法を選択す					講義、演	習比	<u> </u>
	3)4)	統計学的検	定法の概略を説明しデータ解	析を実施する	0				講義、演	習比	<u>.</u>
,	1)7)	論文を読む	(2) abstract から研究の全体値	 象を読み取る。					講義、消	習を	Ē
3	1)2)7)	論文を読む	(2) 研究テーマの設定方法を	考える。					講義、消	習を	Ē
,	1)2)3) 7)	論文を読む	(2) どのような研究手法・手技	があるのかを	 知る。				講義、消	習を	Ē
0	1)2)7)	論文を読む	(2) 研究成果とその意義の伝	え方を考える。					講義、消	習を	Ē
1	5)	文献•化合物	物データベースを使う。						講義、消	習田	3)
2	5)	研究課題に	関連する情報を収集し活用す	·る。					講義、消	習田	3)
3	2)6)	研究課題の	目的・意義を説明する。						講義、消	習常	į į
4	2)6)7)	研究課題 <i>の</i>	目的・意義を英文で記す(1)。						講義、消	習常	5 1
	2)6)7)		 目的・意義を英文で記す(2)。		講義、演	習常					

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 参考書(著者名)出版社名【ISBN】